

平成29年度 八頭高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

八頭高校は、生徒信条「真摯明朗」「克己盡力」の校風を継承し、①知性を養い、真理の探究に努める ②道義を重んじ、人格の形成に努める ③心身を鍛え、気力の高揚に努める を不易の教育方針と定めている。同時に、管理職は生徒や学校の現状、実態等の内部や外部の環境についてSWOT分析を行い、社会の変化に対応した学校のミッション、中長期目標や重点目標を設定し、教職員にわかりやすい全体像（グランドデザイン）を提示して、目標達成に向けて適切なリーダーシップを発揮している。また、必要に応じて「今年度の重点目標」や「自己評価の評価項目」を毎年見直ししており、常に重点化を図っている点は、本評価制度を活かした理想的な学校経営であると考えられる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 八頭高校体験入学、八頭高ライフ体験、八頭タワープロジェクト、「スクラム教育」として授業相互参観や小中高合同研究授業による授業改革等、小中高が連携してこうした事業に取り組んでいる。
※八頭高ライフ体験：中学2年生が高校生活を模擬体験することを通して高校生活の全体像を具体的にイメージする機会を提供し、八頭郡内中学生の高校進学への意欲を高め、中学生生活最終年度の充実を図る学校独自の取組。
※八頭タワープロジェクト：県事業であるスクラム教育が平成28年度で終わったため、中高連携を一層充実させて授業力向上と学力向上を図る学校独自の取組。
- ② 学校行事をはじめ「八頭高愛し愛され運動」等の活動を通して、生徒同士の助け合い、支え合う風土ができています。生徒達は、書道、吹奏楽演奏等の出張パフォーマンスによる地域貢献、東日本大震災被災地を訪問した生徒会執行部による発表等を通じて、社会の一員としての意識や自己有用感を高めています。
※八頭高愛し愛され運動：生徒会が主体となって地域へのボランティア活動や校内での美化運動をすることにより、地域から愛される八頭高校づくりを目指した学校独自の取組。
- ③ TEAS委員会の「TEASだより」発行やマイボトル運動、校外清掃、ごみ箱の廃止等を呼び掛け、環境配慮意識の向上に努めている。また、生徒保健委員会が、日々の保健活動、生活リズムの確立に向けて、スマホ利用時間調査、マイボトル調査、健康観察に積極的に関わっている。そして、両委員会とも調査するだけではなく、SHR（ショートホームルーム）、環境・保健LHR（ロングホームルーム）等で呼びかけを行っている。その結果、平成29年度マイボトル運動の持参率は95%となっており、こうした生徒の主体的な取組は模範的な取組である。
※TEAS：Tottori Environmental Audit and Scheme（鳥取県版環境管理システム）。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 進路に関する悩み等について、生徒の進路意識の高揚と学力・意欲向上をキーワードに具体的な対策を講じる必要がある。
- ② 現在、学校にはタブレットが40台しかないため、3学級分の台数を確保したいと要望している。また、利用環境として無線LANの構築も急務であると考えられる。
- ③ 学校は、今まで以上に「関係者の声を反映した地域社会から信頼される学校づくり」を目指すのであれば、八頭町・若桜町・智頭町の各自治連合会の会長、副会長等から学校に対する要望や意見を聞く懇談会を設定されることを期待する。

【中項目の指標についてのコメント】

中項目 1－(1) 教育課程等の実施状況 (B)

各学年において、習熟度別や少人数の授業が実施されており、生徒の人数も考慮されたクラス編成が行われている。習熟度別授業は、2年探究コースのコミュニケーション英語Ⅱ(2クラス3展開)、3年総合コースの数学等で行われていた。少人数授業については、エキスパート教員による古典「歌物語を読む」において、個人ワークやペアワーク、同じ意見や考え方を共有するグループワーク(3～4名)等を取り入れ、学習形態を工夫した生徒同士の対話による理解促進を図っていた。なお、他の教科でもこうした学習形態を工夫した授業展開が見られた。授業評価アンケート(生徒・教職員)では、「意欲」に関する設問の肯定的回答が80%以上であり、学校は学習意欲を高める授業に取り組んでいると思われる。また、学力向上に向けた3年間の取組の全体像を作成し、各学年において個別の活動を展開している。具体的には、土曜日自習・質問教室、平日補習(3年)、自学自習を中心とした「勉強合宿(6月・8月)」(3年)、サテライト授業等を実施しており、生徒の主体的な学習の促進を図っていた。

外部人材の活用として、探究コースでは、「企業家・文化人訪問」や公立鳥取環境大学教員によるゼミ指導、体育コースでは、講義と実演を組み合わせた「ウェイトトレーニング講習会」「エアロビクス講習会」等を実施している。また、特別講座「よりよい社会人になるために」(3年)では、進路の決まった生徒を対象に、各方面で活躍されている方を講師として招き、社会人として必要な教養やマナーを身に付けさせている。

キャリア教育全体計画では、目標・育成すべき能力や態度、学年の重点目標及び主な指導内容を示すとともに、キャリア教育活動のプログラム(総合的な学習の時間、特別活動、教科、その他の活動)がわかりやすく示されている。しかし、総合的な学習の時間やLHRの年間指導計画は項目のみが列挙されているだけであり、検討する余地があると考える。

生徒の部活動加入率は高く、運動部・文化部とも活動が盛んで、優秀な成績を収めている。ただ、教職員の年齢構成において50代が4割を占め、産休・育休・時短の教職員が多くなっており、学校としても顧問配置に苦慮している現状が見られた。

中項目 1－(2) 進路指導の状況 (B)

入学時の進路希望調査では「未定」が約20%となっている。進路に関する悩み等については、できるだけ早い段階で面談・相談の機会を設定すべきであると考え。同時に、1年次の過去のデータをみると、国立大学への進路希望が50%弱と最も多い。生徒の進路意識の高揚と学力・意欲向上をキーワードに具体的な対策を講じる必要がある。

進路希望調査は、各学年共通のフォーマットを使用し、年2回実施されている。進路相談は、「面接週間(4月・9月)」を設けており、平成28年度より担任だけではなく、教科担任とも随時面談を行っていることが特筆すべき点である。また、「八頭高校体験入学」、八頭郡内の中学2年生全員を対象とした「八頭高ライフ体験」、八頭タワープロジェクト「先

輩に学ぶ」学習会、「スクラム教育」として授業相互参観や小中高合同研究授業による授業改革の取組等、小中高が連携して、こうした事業に取り組んでいることは素晴らしく、他の模範である。

中項目 2 - (1) 児童生徒の状況 (B)

朝の登校時の様子や授業参観からほとんどの生徒の服装が整っていることが確認でき、生徒指導の成果として落ち着いた学校づくりができています。生徒支援部・生徒指導委員会を中心に生徒指導に取り組む体制が整備されており、きめ細かな生徒指導諸規定も作成され、指導面だけではなく賞賛する表彰規定も盛り込まれている点は素晴らしい。また、過去8年間の欠席者数の推移をみると、ここ3年間減少傾向にある。

教育相談専任教員とスクールカウンセラーが中心となって生徒・保護者・教職員の相談に対応するとともに、全教職員を対象にした研修や事例検討会、生徒対象の講演会、PTA講演会も実施している。また、いじめ防止対策委員会を設置し、対応マニュアルを作成して、未然防止・早期発見の取組、初期対応、関係者の指導やアフターケア等に対応できる体制を整備している。全学年を対象にいじめアンケート(1・2年は3回、3年は2回)を実施し、必要に応じて面談を行っている。

特別支援教育についても、中学校から円滑に引継が行われており、定期的な個別支援会議も開催されている。個別の指導計画は教科担任も含めて作成されており、職員会議等において生徒の状況(配慮事項等)を報告し、教職員間で共有している。

学校行事をはじめ「八頭高愛し愛され運動」等の活動を通して、生徒同士の助け合い、支え合う風土ができていると考えられる。また、生徒達は、書道、吹奏楽演奏等の出張パフォーマンスによる地域貢献、東日本大震災の被災地を訪問した生徒会執行部による発表、各種ボランティア活動等を通じて、社会の一員としての意識や自己有用感を高めている。

TEAS委員会の生徒環境委員が「TEASだより」の発行やマイボトル運動、校外清掃、ごみ箱の廃止等呼び掛け、環境配慮意識の向上に努めている。また、生徒保健委員会が、日々の保健指導、生活リズムの確立に向けて、マイボトル調査、スマホ利用時間調査、健康観察に積極的に関わっている。そして、両委員会とも調査するだけではなく、LHR等で呼びかけを行っている。その結果、平成29年度マイボトル運動の持参率は95%と高くなっており、こうした生徒の主体的な取組は模範的な取組である。

「事故・災害等対応マニュアル」や学校安全・防災計画を毎年作成しており、マニュアルに基づき、教職員研修、防災訓練の実施等に取り組んでいる。また、学校が避難場所になった場合等を想定し、常に改訂に努めている点は素晴らしい。鳥取県中部地震においても、ほぼマニュアルどおりに対応でき、生徒を円滑に避難させ帰宅させることができた。

中項目 3 - (1) 組織運営等の状況 (B)

管理職は、八頭高校のミッションを明らかにし、全体像(グランドデザイン)を教職員にわかりやすく提示するなど、目標達成に向けて適切なリーダーシップを発揮していると

考えられる。また、教職員への聞き取りから、好意的な意見が多く、管理職と教職員とのコミュニケーションがとれていることがわかった。しかし、行事やイベントが多く、部活動、補習等で生徒と関わる時間が増加しており、業務量・時間外勤務が増えている。そのため、時間外勤務の改善に向けた努力が必要と考える。

組織的な授業改革に取り組むため、週時程に教科会を位置付けている点、授業評価アンケート結果を公表して、LHRにおいて生徒にフィードバックしている点は素晴らしい。

中項目 3 - (2) 教育目標や学校評価の状況 (B)

管理職が「八頭高教育の目指すもの」を作成し、生徒や学校の現状、実態等の内部及び外部の環境についてSWOT分析を行い、中長期目標等を設定している。また、必要に応じて「今年度の重点目標」や「自己評価の評価項目」を毎年見直しており、当初の目標が達成されたら新たな目標に変更するなど、常に重点化を図っている点は本評価制度をいかした理想的な学校経営である。さらに、学校評価アンケート・授業評価アンケート等の評価材料をいかして教育活動の改善が図られている。

中項目 3 - (3) 教育委員会と学校の取組状況 (B)

学校の重点目標と事業は、教育方針に沿って進められており、「学力向上の推進」「キャリア教育の充実」に関する事業として取り組んでいる。また、「八頭タワープロジェクト」等の特色ある教育活動に十分取り組んでいる。今後はスリム化・重点化を考え、効果的に取り組むことを検討している。

建物敷地と運動場を合わせて十万㎡を超える広大な面積を保有しているが、施設・設備の安全・維持管理の点検は定期的に実施されている。ICTを活用した授業は不可欠であるが、現在、学校にはタブレットが40台しかないため、3学級分の台数を確保したいと要望している。また、利用環境として無線LANの構築も急務であると考えます。

中項目 4 - (1) 学校・家庭・地域の連携協力の状況 (C)

進路、環境配慮活動、学校評価結果等は学校ホームページで公表されており、新着情報も頻繁に更新されるなど、保護者や学外者に向けた情報提供を心がけている。八頭高だより(年3回)、学年だより(随時)も発行しているが、これらもホームページに公表してはどうかと考える。現在は、ホームページの情報更新を情報担当の教員1名が担当しているが、今後の体制として学年主任や分掌部長も加わり、学年行事やイベント等の情報も紹介すると保護者等のアクセスが多くなるのではないかと考える。

学校は、八頭郡外からの生徒が増えた現状に合わせて、郡外の保護者も参加しやすいPTA活動を模索している。今まで以上に「関係者の声を反映した地域社会から信頼される学校づくり」を目指すのであれば、八頭町・若桜町・智頭町の各自治会連合会の会長、副会長等から学校に対する要望や意見を聞く懇談会を設定されることを期待する。